

赤崎正和 監督作品

ちづる

妹が僕に  
映画を  
つくらせた。

製作●池谷薫（「蟻の兵隊」「延安の娘」）  
撮影●赤崎正和・赤崎久美ー録音●石山智弘  
編集●赤崎正和一音楽●内池秀和  
音響効果●鈴木利之一題字●赤崎千鶴  
2011年ー日本ーカラーーHDー79分ーヴィスタ  
配給・宣伝●「ちづる」上映委員会



©「ちづる」上映委員会

2022 11.5 土  
at logue uenohara

『bookmark』#1 共催・夢らぼ  
映画『ちづる』上映会

自閉症のある妹の日常を撮影したドキュメンタリー映画「ちづる」の上映会を通じて、障害について考える催し「bookmark」を開催いたします。映画上映は3回で、最終上映終了後に赤崎監督とのトークセッションを行います。



- 入場無料（ワンドリンク別500円）
- 事前予約制 / 各回定員40名

ご予約はQRコードもしくは裏面記載のメールよりお願いいたします。



- ① 10:30 - 12:00
- ② 12:30 - 14:00
- ③ 14:30 - 17:00

2011年 東中野の小さな映画館で『ちづる』を鑑賞した。  
自閉症の妹を撮影した兄、赤崎正和監督によるドキュメンタリーだ。

暗闇の中、「自閉症の弟の兄」である僕は「自閉症の妹の兄」である赤崎さんの視点を通して、  
予期せぬ形でこれまでを振り返ることとなった。  
幼いころからうまく言語化できなかった気持ち、  
生活の中で浮かんで消えていったいくつもの感情が、  
会ったこともない誰かのつくった映像の中に散りばめられていた。

—いつか赤崎さんと会って話がしてみたい。  
そんな漠然とした思いを抱きながら帰路についた。

その願いは、2019年に叶うことになった。  
多くの人の支えのおかげで、生まれ故郷の神奈川県藤野町で自主上映会を企画したのだ。  
イベント名は『bookmark』とした。  
突然のメールにも関わらず、赤崎さんは丁寧に返信をくれ、新宿の純喫茶で打合せをした。

初対面の僕たちは  
幼少期に感じていたこと、互いの妹や弟のこと、家族のこと、障害のこと  
時間を忘れて話し続けた。  
赤崎さんは繊細ながらも強い意志を持ち、  
「言葉」をひとつひとつ大切にする人だった。

福祉を志すものとして？ きょうだいとして？  
“〇〇として”ではなく、ただただ昔からの友だちのように、  
コーヒーカップが空になっても、話は尽きなかった。  
そして、当日の上映会場はたくさんの人と言葉で溢れていた。

あれから3年、ここlogueで再び『bookmark』を始める。  
本に葉をはさむ行為は、目の前にいる人のこれまでを尊重し、  
あなたとこれからも関わり続けたいというささやかな祈りに似ている。

障害を理解することなどできないかもしれない。  
それでも  
障害を考える人が増え、ひとつずつ言葉を紡いでいくことができれば。

『ちづる』を通して  
また誰かの帰り道を照らすことができれば…  
その光が読み継がれていくことを願っている。

logue  
井上真吾



赤崎 正和



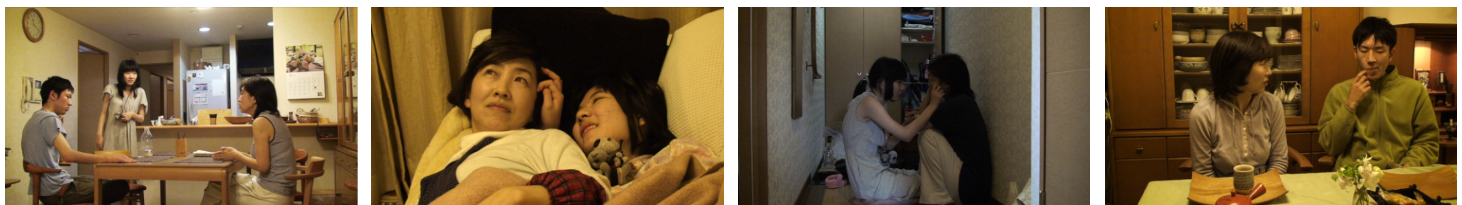
井上 真吾



米山 しずか

●トークセッション（最終上映会終了後／約60分）

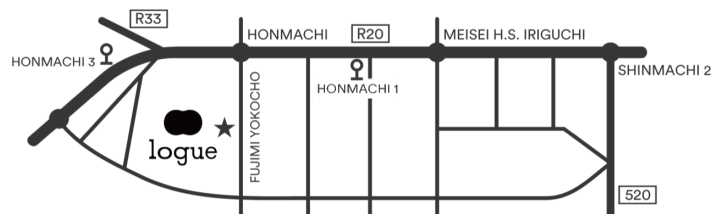
映画「ちづる」誕生の背景や家族のその後、これから赤崎監督をお招きしてトークセッションを行います。ゲストに上野原で生まれた家族会「夢らぼ」の米山しずかさんも参加。上野原の町のことや障害についてあらためて考える時間です。



## ●障害福祉サービス ローグ



僅かながら駐車場がありますが、数が限られておりますので基本的には公共交通機関でお越しください。駐車場の利用を希望される方は、事前にお問い合わせください。



〒409-0112 山梨県上野原市上野原2075-1

Tel: 0554-67-8680 | Mail: info@logue00.com | Fax: 0554-67-8681 | HP: https://logue00.com

[アクセス] 最寄り駅: JR中央線「上野原駅」富士急バス「本町一丁目」もしくは「本町三丁目」下車 徒歩4分 駐車場5台（無料）